

① R5年度の取組

■ 受動喫煙対策事業

若年層の喫煙習慣化防止の検討会を実施するとともに、受動喫煙防止に向けたキャンペーンや施設向け調査を行う。

(R5事業内容)

○ 若年者の喫煙習慣化防止

- 新たにたばこを吸う人を減らし、喫煙習慣化の防止を図るため、教育機関や企業と連携しながら、今後必要な取組、効果的な情報発信等について検討を行う。
→若年者の喫煙習慣化防止に向けたワークショップのプレ開催（12/7）

○ 望まない受動喫煙防止のための対策

- 受動喫煙防止の機運を醸成するため、がん啓発イベントとも連携しながら新たに受動喫煙防止のためのキャンペーンを行う。
- 今後の受動喫煙対策検討のために資するものとして、公共施設等及び第二種施設を対象とした調査を実施（3年に一度の調査）

② 課題

○主に職場における受動喫煙の防止に向け、これまで好事例の横展開などに取り組んできたが、依然として受動喫煙の機会を有する者の割合は横ばいで推移
→職場における受動喫煙対策の実態把握を行うとともに、改めてルールの周知徹底を図る。

○高校生の喫煙経験者は0.9%（R1）であるのに対し、20代～30代では男女ともに喫煙率が高くなっていることから、進学や就職等を機に喫煙を習慣化する層が一定割合存在
→これまで対策が十分でなかった「吸い始め（20～29歳）の喫煙習慣化防止」について、若年者自身の意見を踏まえた施策を展開していく必要がある。

県・全国年代別喫煙者割合(R1)【男性】

【女性】

	総数	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上		総数	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上
県	27.4%	26.7%	35.4%	41.6%	28.0%	34.9%	11.6%	県	5.0%	2.6%	14.3%	5.9%	11.3%	2.1%	1.8%
全国	27.1%	25.5%	33.2%	36.5%	31.8%	31.1%	15.1%	全国	7.6%	7.6%	7.4%	10.3%	12.9%	8.6%	3.0%

③ R6年度の取組（案）

■ 受動喫煙対策事業

職場における受動喫煙防止に向けた実態把握を行うとともに、若年者の喫煙習慣化を防止するため、大学や専門学校、企業等と連携し、学生や若手社員を対象としたワークショップを開催する。

○ 受動喫煙防止に向けた実態把握

- 職場における受動喫煙防止対策の現状について、企業へのヒアリング等による定性的データの収集を通じ、対策状況の実態を明らかにする。

○ 若年者の喫煙習慣化防止に向けたワークショップ

- 若年者の喫煙習慣化を防止するため、大学や専門学校、企業等と連携し、学生や若手社員を対象としたワークショップを開催する。
- ワークショップを通じ、喫煙に関する知識の普及啓発を図るとともに、喫煙習慣化防止に向けた取組のアイデアについて、若年者自身にも考えてもらうための場とする。

④ 目指す姿等

○新たにたばこを吸い始める者の抑制による、喫煙率の減少

○職場における受動喫煙対策の徹底による、望まない受動喫煙の機会減少

⇒たばこを原因としたがん等による死亡者の減少及び健康寿命の延伸